

■ 完成イメージパース（本計画完了時）



■ 事業計画

本計画により早期の公開を目指します。

計画前半では、人工物の撤去や不要樹木の伐採、囲柵の設置等の工事を行うとともに、地形復元に向けた発掘調査等を行い、基礎資料を蓄積します。また、解説情報やデジタルコンテンツの内容について準備します。計画後半では、調査成果に基づく盛土造成、案内板の設置、周辺関連遺跡等へのサイン等を設置します。

また、ガイダンス施設である郷土博物館では、山野貝塚に関する展示を更新しながら、史跡指定10周年にあたる2027（令和9）年度に特別展を開催します。

現在も行っている調査研究や講演会、ボランティア活動については、内容の充実を図りながら継続して進めていきます。

種別	事業内容	計画前半				計画後半			
		2023 (令和5)年度	2024 (令和6)年度	2025 (令和7)年度	2026 (令和8)年度	2027 (令和9)年度	2028 (令和10)年度	2029 (令和11)年度	2030 (令和12)年度
調査	発掘調査	報告書刊行	発掘調査	報告書刊行		発掘調査継続			
整備	既存構造物撤去・伐採		実施設計	工事					
	エントランス・体験ゾーン・史跡外周柵		基本設計	実施設計	工事		史跡現地の供用開始		
	貝層高まり盛土・園路舗装・案内解説施設・便施設・植栽		解説板 試行設置	基本設計	実施設計	工事	工事		
	関連文化財等整備					基本設計	実施設計	工事	
	整備報告書							報告書刊行	
活用	講演会・現地説明会								
	学校連携								
	パンフレット				改訂				
	ボランティアガイドツアー								
運営	維持管理・運営管理								
郷土博物館	展示更新・特別展		展示更新	展示更新	指定10周年特別展	展示更新			
	模型製作			製作					
	体験活動								

『史跡山野貝塚整備基本計画』本編はこちら→



さんやかいづか
史跡山野貝塚整備基本計画【概要版】

■ 山野貝塚とは？

袖ヶ浦市飯富に所在する山野貝塚は、縄文時代後期～晩期（今から約4,500～2,500年前）にかけて、長期間継続的に営まれた貝塚を伴う集落跡です。東西約140m、南北約110mの範囲に貝層の高まりが馬蹄形に展開し、その内側に高低差1.2mの中央窪地が形成されました。

縄文時代以降、大きな土地の改変を受けていないことから、縄文時代の景色を色濃く残す遺跡としても評価されています。

さらに、東京湾東岸の貝塚群において、現存する大型貝塚の中では最南部に位置し、また東京湾東岸のほぼ中央付近に位置する地理的特徴を反映して、東京湾東岸の内湾部の貝塚と外湾部の貝塚の両要素を併せ持つ貝塚でもあり、東京湾東岸の貝塚群を考えていくうえで、山野貝塚は重要な遺跡と位置づけられます。

このような重要性から、2017（平成29）年10月13日に国史跡に指定されました。



山野貝塚の位置

約15,000年前	縄文時代					約2,500年前	200年頃	710年	794年	1165年	1333年	1467年	1603年	1868年	1945年	
旧石器時代	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	戦国時代	江戸時代	明治・大正	昭和・平成

年表（緑色に着色した部分が山野貝塚が営まれた時代）



土器・獣骨の出土状況

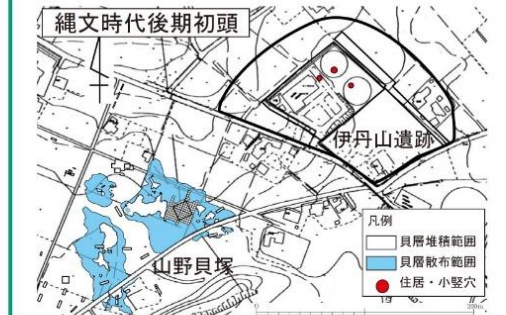


山野貝塚から発見された土器

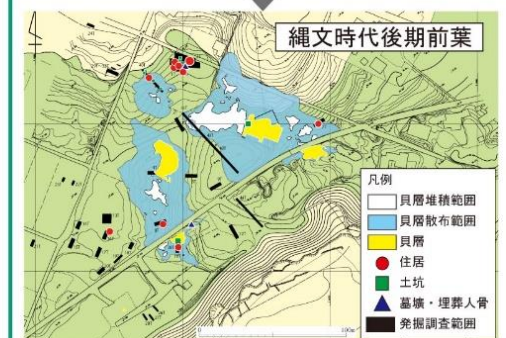
■ 山野貝塚の重要性（本質的価値）

- ① 縄文時代の景色を今に残す、保存状態が良好な貝塚
- ② 東京湾東岸に現存する大型貝塚の中で最も南側に位置する貝塚
- ③ 東京湾東岸のほぼ中央部に位置するという地理的特徴を反映する貝塚
- ④ 東京湾東岸の拠点集落

山野貝塚の変遷



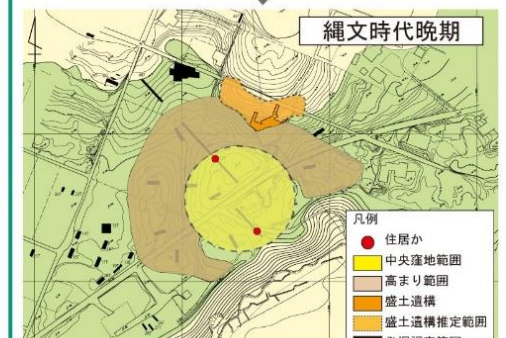
山野貝塚と北東側の浅い谷を隔てて隣接する伊丹山遺跡で集落が形成されます。



大規模な集落が形成され、馬蹄形貝塚の原型もこの時点から形作られたものと考えられます。貝塚の外側から住居跡や墓が発見されました。



引き続き集落が営まれ、貝層も形成されますが、住居跡や土器等の遺物は主要貝層範囲及びその内側から検出される傾向にあります。



貝層は確認されておらず、中央窪地が形成され、北東緩斜面の外側に盛土遺構が確認されます。

